

基本的な 方向	具体的な 施策	所管課	事業名	事業概要	具体的取り組み（R6）	重要業績評価指標（5年間）			現状における実績							喫緊の課題	今後の方向性	R6 予算状況
						指標	指標値	単位	R2	R3	R4	R5	R6	実績値	達成率（%）			
Ⅰ 雇用支援	産業の担い手対策支援	農林課	「モノ・コト・ヒト」Connectもりプロジェクト！	旧教職員住宅を北森カレッジや各種学生のインターンシップ、ワークショップ、合宿として活用することで、森町を知ってもらう機会醸成する。このことにより、若年層の関係人口の創出と定住化促進を図る。	・滞在型の学生コミュニティスペースとして木質空間をPRし、地材地消の取組みと様々な学生が集まる交流施設として展開している。 【R6実績】 ◎東京学芸大学(1名・2週間) ◎北海学園大学(2名・1ヵ月) ◎武蔵野美術大学(1名・3ヵ月) ◎北海道大学（1名・3週間） ◎札幌市立大学（1名・2日） ◎北の森づくり専門学院（1名・5日）	①	北の森づくり専門学院卒業生の就業、定住数	7件	-	2	1	0	0	3	43%	森町と関係する大学・専門・高校生のみの活用に留まっていることから、若年層に届くようにSNS等の活用を強化する。また、地元森高校が定期的な活動ができるように促す。	大学・専門・高校生にまちづくりや仕事（インターンシップ）に関わることで、町の課題を見出し、1次産業のポテンシャルを活かした新たな産業を創出する。	2,161
			地域ブランド（道南スギ）の新たな掘り起こしと魅力発信	森町は豊富な資源を背景に一次産業が産業構成の主体となっているが、人口減少や高齢化が進み、地域の担い手不足や諸活動が停滞する状況である。このことから、今後地域外の人材を積極的に誘致し、意欲ある若年層による新しい風をおこし、地域力の維持・強化を図ることが求められる。林業・林産業が一体となり新たな産業の創出を図り、若年層向けに魅力ある就業機会となる受け皿を構築し持続可能な産業体制を図る。	・地域おこし協力隊の採用から終了後のスタートアップや就職するまでの成功事例や課題を把握するため、現地視察を実施。また、渡島総合振興局の地元材のブランド化事業と連携し、樽の現地研修を受けた上で、樽の技術習得をめざす。 【R6実績】 ・スタートアップ支援、事業所型（西栗倉村、奥出雲町）6月 ・商店街再生と公民連携（栗原市、柴波町）10月 ・リノベーション、木材工房（南伊豆市、上松町）11月 ・北海道洋酒PJ工房 樽製造の現地実習（北広島市）3月	①	道南スギの新規用途開発、ブランド化、就業促進	1名	-	0	1	1	1	3	300%	渡島管内において、日本酒、ワインの新規参入があり、町内においてもワイン用のブドウ栽培が始まったことから、地元材による樽、樽等の要望があり、高次加工技術を活かした製品開発に期待できる。	地域材を活用したもののづくりに興味がある地域おこし協力隊を募集し、道南スギの新たな用途・ブランド化を目指して、若年層が新規創業（起業チャレンジ）できる環境を整えて、就業促進を図る。	4,849
			木造公共施設「森町モデル」	今後、予想される人口減少も踏まえたうえで、公共施設を単に統廃合や複合施設と安易に進めるのではなく森町らしい地域性を活かした小さな拠点づくりを目指し、その地域にあった規模・用途・仕様に応じたコンパクトであり、且つ転用可能な低コスト木造公共施設「森町モデル」を検討する。また、地元木材の品質と加工技術を最大限活かした画期的な新しい建築工法・技法を開発する。	・地域資源である木材を活用した木造公共建築物の増設を進め、地域経済と環境保護を推進する。さらに、広域的な木造建築の拡大を図るため技術資料を作成し、建築士や設計者向けに森町モデルの取組を伝え、木造建築の導入を促進する。地域全体での持続可能な発展を目指す。 【R6実績】 ・森町モデル推進協議会の開催(6月、10月、3月) ・森町トラスを応用した耐力壁の開発	①	町内林業・林産業の育成、就業促進	2名	-	0	0	0	1	1	50%	住宅着工数は年々減少の一途にあり、さらに少子高齢化により木材需要の増加は見込めない状況にある。このことから、非住宅分野等の新たな用途開発により木材需要の創出を図る。	町内の木材需要拡大によって、森林から生産される木材等の収益が増加し地域の素材生産者、林産加工業者、建築工務店などの所得と雇用吸収力が増大し、森林の整備や保全に再び向けられるといった森林資源の循環利用、森林・林業の再生や山村地域の活性化を図るとともに、域外への所得流出を防ぐことで域内全体への経済波及効果がもたらされる地区を目指す。	3,001
			若年層の担い手育成による・定住人口創出支援事業	林業・木材産業の新たな担い手確保のため大学生等のインターン・地域実践実習による就業支援及び木製品加工ができる拠点施設として、元駒ヶ岳大沼畜産診療所を若年層の担い手育成施設として整備する。木製品加工ができる地域おこし協力隊と大学生等が就業体験ができる協創空間として、町内に域外からの流入し続ける状態を創出し、関係・定住人口の創出を図る。	・産業体験などによる都市住民との交流や研修生等を受け入れるための活動拠点とするため、デジタル機械（レーザーカッター、CNCルーター等）の導入し、誰でも簡単にものづくり体験ができる場を提供する。 【R6実績】 ・地域おこしインターン生として大学院生1名、学部生4名を委嘱。 ・森高校住生活デザイン授業にて、林業・製材加工体験、ニチレイの育みの森木製デッキを制作。今後はニッセイにっしんの森の間伐材でノベルティグッズ制作を実施する予定。 ・玉川大学の木育イベントで材料提供と制作指導。 ・鷲ノ木小学校の子どもたちを対象に木炭の科学実験を10月実施。 ・森高校デザイン部（定期開催）	①	地域おこしインターン	10名	-	-	3	4	4	11	110%	森町は森林面積が総面積の76%を占め、豊富な森林資源を背景に一次産業が基幹産業となっているが、人口減少や高齢化が進み、地域の担い手不足により、諸活動が停滞する状況にある。林業・木材産業も同様であり、小規模零細の製材工場は生産量と従業員数が年々減少している。今後伐期を迎える林分も多くなってきており、計画的な伐採と活用の両輪を推進することが重要な課題である。	ものづくりとひとづくり（担い手）が一体となる交流拠点施設は様々な若年層が集まり体験活動ができる「場」となることで、交流人口（3日～5日）、地域おこしインターン（3週間）、地域おこし協力隊（3年）という段階を得ながら、地域を知り・地域と交流することで新たな仕事を創出し、定住促進につなげていく。	30,423
			大学連携による産業振興支援事業	森町における若者の定着、定住を推進するため、福島大学と具体的な数値目標を掲げた「協定」を締結し、連携した若者の定着や雇用創出に向け、インターンシップ等を実施することで、町内農業を中心に産業振興支援を行う。	・福島大学教授及び助教授陣の講演、学生体験プログラムの実施 【R6実績】 ◎サイエンスカフェ（令和6年9月24日、25日） 森高等学校、さわら小学校 ◎地域見学（令和6年9月24日） 見学先：森地熱発電所 ◎町内農産物受託研究	①	講演会開催等	3件	-	-	1	1	0	2	67%			
			新規就農者等の定着促進に向けた支援事業	新規就農者の定着を推進するため、森町営農指導対策協議会及び森町指導農業士・農業士等が連携し、就農者受入から生産物等の販路の確保に至るまで伴走的な支援等を行う。	・新規就農者の定着に対する支援のスキーム作成 ・インターンシップ事業 ・町独自の支援による農業者のトータル支援 【R6実績】 農作物推進支援：2件 農産物加工振興支援：2件 収入保険加入支援：51件	①	新規就農者数	1名	-	-	-	-	1	1	100%	関係機関と協議調整が必要になる。	定着支援による担い手の確保を図る。	5,900
			ちゃっぷ林館大規模改修事業	施設は経過年数相応の劣化等が見られることから、施設長寿命化を図る。	・施設の劣化及び維持管理状況を調査し、その結果等に基づき健全度評価を行い、劣化が著しく機能上の問題が大きい部分に関しては、改修設計を実施する。	①	新規雇用者数	1名	-	-	-	-	0	0	0%	大規模改修での施設機能の充実等による新たな雇用創出を目指していたが、劣化が著しく多額の費用が発生するため、指定管理者との協議を重ねて更新箇所の優先度等を検討する必要がある。	施設の劣化状況に応じた改修を行い、町民の福祉向上を目的とした魅力的な施設となるよう取り組んでいく。	7,000

